

2019 世界柔道選手権東京大会

男女混合
団体

に貢献

銀
個人戦

女子 78kg 級

寝技の女王 惜しくも

世界一の寝技で勝利する濱田2尉（右：3回戦で）

世界の強豪相手に
果敢に攻め抜いた

令和元年8月25日から9月1日までの間、2019年世界柔道選手権東京大会が日本武道館で行われた。体育学校からは女子78kg級に濱田尚里2等陸尉が大会6日目の8月30日に出場した。

昨年の世界女王である濱田2尉は1回戦シードで2回戦からの出場。初戦となった2回戦、谷落しで技ありを先取すると相手の背中を一瞬で捕らえ畳に倒し世界一とも言われる寝技（横四方固）を決め、合わせ技で一本勝ち。3回戦では強化してきた立技（大内刈）を豪快に繰り出し試合時間わずか42秒で見事一本勝ちを決めた。

準々決勝でも得意の寝技（崩れ上四方固）で勝利し、オール一本勝ちで準決勝へと駒を進めた。

迎えた準決勝、相手は今年のヨーロッパ女王であるクララ・アポテカール選手（スロベニア）。身長187cm、長いリーチを生かした大外刈を得意とする選手だ。アポテカール選手との身長差は約20cm、体格的に不利かと思えた濱田2尉だったがその差を物ともせず、試合開始直後から積極的に攻撃し寝技の体勢に入ると、瞬く間に腕緘（うでがらみ）を決め、試合時間42秒で一本勝ちを収めた。

2連覇をかけて挑んだ決勝戦の相手はマドレーヌ・マロン選手（フランス）。力強い柔道で果敢に攻めるマロン選手の柔道は「超攻撃柔道」といわれており、濱田2尉も過去に2敗している強敵だ。序盤は右釣手で頭を下げられ自分の組手を作る事ができず苦戦を強いられた。マロン選手に大外刈から大内刈の連続技で技ありを奪われ劣勢となるも、すぐさま巴投げから得意の寝技に持ち込み逆転のチャンスを作るが決めきることができなかった。その後も濱田2尉は果敢に攻め抜き、大外刈を仕掛けるもマロン選手に大外返で返され一本負けとなり、世界選手権2連覇はならなかった。



個人決勝で惜しくも敗れ金メダルを逃したが、果敢に攻めた濱田（左）

試合後、濱田2尉は「金メダルを目指していたので、決勝で負けてしまったのは残念。武道館にたくさんの応援の方が来て下さって、心強かった。優勝して恩返しがしたかったので、悔しい。」と本大会を振り返ると「また来年、ここで試合ができるように、一つずつ結果を出して東京五輪の代表になりたい」と今後の決意を語った。

男女混合
団体優勝
に大貢献

大会最終日となる9月1日には男女混合団体戦が行われ、濱田2尉が女子70kg超級の代表として試合に臨んだ。男女混合団体戦は2020年の東京オリンピックの新種目で、男女3階級の6人制で行わ



表彰台では悔しさを滲ませた

れる。男子は73kg以下、90kg以下、90kg超、女子は57kg以下、70kg以下、70kg超で構成され、総合力での争いとなる。出場予定であった78kg超級の選手に替え、当日朝、濱田2尉の出場が決まった。日本チームは準々決勝で韓国、準決勝でブラジルを、ともに全ての試合を一本勝ちで勝利し決勝まで駒を進めた。

迎えた決勝戦では、フランスを相手に3対2で日本チームが王手をかけたかたちで、最終戦女子70kg超級の戦いとなった。フランス代表は個人78kg級の金メダリスト M. マロン選手。濱田2尉にとっては負けられないリベンジマッチ。開始1分過ぎ、濱田2尉が得意の寝技に持ち込むと、直後にはマロン選手が抜けるのをあきらめるほど完璧な縦四方固めを決め、個人戦での雪辱を果たしオール一本勝ちで日本チームの優勝に大きく貢献した。

PHOTO GALLERY
自衛隊体育学校フォトギャラリー
各戦線の写真をアップ!

選手たちの活躍を自衛隊体育学校ホームページでご覧ください。
フォトギャラリーに写真を掲載しています。 http://www.mod.go.jp/gsd/phy_s/index.html

自衛隊体育学校

検索

